

中学生のための 「慰安婦」展 + 教科書

2022年1月15日(土)～2022年11月末

2007年、2014年に続いて3回目となる今回の「中学生のための『慰安婦』展」は、教科書問題を“プラス”しました。

1997年度から使われた中学社会科(歴史的分野)の教科書では、7社すべてに日本軍「慰安婦」についての記述がありました。それから25年、政治介入や教科書制度の改正などの影響を受け、現在の記載はほんのわずかです。一方、高校の教科書では、1990年代半ばから多くの教科書で「慰安婦」が言及されてきました。高校の地理歴史・公民科の教科書は種類も多くて複雑ですが、「慰安婦」記述を徹底調査。執筆者や教科書会社の苦心の跡も見えてきます。

しかし、2021年4月、日本政府は高校の教科書の「慰安婦」記述もターゲットにするようになりました。これまで教科書で「慰安婦」制度がどのように記述されてきたのかを確認し、記述の変遷と日本の教科書制度の問題点を伝えます。



●日本軍「慰安婦」制度とは



日本軍「慰安婦」制度と元兵士の証言

いつ、どのように、何のために慰安所がつくられたのか、日本軍「慰安婦」制度の基本のキをQ&Aパネルと2019年にリニューアルした日本軍慰安所マップから解説。自らの戦争加害に向き合った元日本軍兵士の証言も紹介。



各国・地域ではじめに名乗り出た被害女性たち

11カ国・地域で最初に「慰安婦」とされた被害を語った女性たちの証言からは多様な被害実態が見えてくる。また、それぞれの女性たちの証言の下には、各国の市民や政府の「慰安婦」問題への取り組みを伝えるパネルも展示。

●日本の教科書制度と教科書の「慰安婦」記述



教科書ができるまでとその問題点

執筆から子どもたちに届くまでの流れを、検定、採択、供給、価格それぞれの問題点とともに展示。「慰安婦」などの戦争加害の記述のみならず、よりよい教科書づくりを妨げているのが教科書制度そのものであることが見えてくる。



略年表：国家管理がすすむ教科書

戦前のみならず戦後も国家権力が子どもを教化するツールとして使われてきた教科書。国家による管理の歴史と、それに抵抗する「家永教科書裁判」など市民の取り組みを年表で伝える。

会員になりませんか？

●友の会年会費：3,000円 ●維持会員年会費：10,000円

会員にはニュースレター(年3回)のほかイベント案内などを逐次おしらせします。

維持会員は入館料無料。各種セミナーや刊行物の割引もあります。

郵便振替口座番号：00110-2-579814

口座名称：「女たちの戦争と平和人権基金」係

wam
アクティブ・ミュージアム

女たちの戦争と平和資料館

Women's active museum on war and peace

開館時間：金・土・日・月 13:00~18:00

2月11日、2月23日、4月29日、11月3日は
「祝わない」ため開館

休館日：火・水・木・祝日（天皇制由来の上記4日を除く）

※時間外の団体来館はご相談ください。

※展示入れ替え期間と年末年始は休館となります。

入館料：18歳以上 500円

18歳未満 300円

小学生以下 無料

※障害のある方の付き添いは無料です。

東京都新宿区西早稲田2-3-18 AVACOビル2F T 169-0051

T:03-3202-4633 F:03-3202-4634 E:wam@wam-peace.org

URL:https://wam-peace.org Twitter:@wam_peace

